

The logo features a large grey crescent moon with a light blue circle inside it, set against a white background. A light blue rectangular bar is positioned above the top part of the crescent.

提言書

「クリエイティブシティ・ヨコハマの  
新たな展開に向けて」

**Creative City Yokohama**

平成20年7月  
創造都市横浜推進協議会

# 目次

1.	これまでの取組と成果	1
	(1) 新たな都市再生政策への転換	
	(2) プロジェクトの推進成果	
2.	今後の新たな展開(提案)	2
	(1) 国際会議の開催	
	(2) 創造都市の取組分野と既存施策の拡充	
	(3) 都心部魅力づくりの展開	3
	(4) 市民、企業の創造力による地域づくり	
	(5) 創造都市の推進体制	
(参考)		
	検討経過	5
	検討メンバー	6
	(仮称)世界創造都市会議企画(案)	7
	アーツコミッション・ヨコハマの機能強化について	8
	創造界限拠点の今後の方向性について	9
	産業集積について	10
	みなとみらい21地区の動向	11
	開港水際界限とは	12
	開港水際界限の将来イメージ	13

# 創造都市横浜推進協議会からの提言

## クリエイティブシティ・ヨコハマの新たな展開に向けて

平成20年7月17日

創造都市横浜推進協議会 会長 福原義春

創造都市の形成は、横浜市民の豊かな創造力に立脚し、市民の暮らし方、働き方、楽しみ方などを含めた都市文化の向上を図る視点が大切です。

また、都市を舞台に様々な場面で、「創造力」による「人と人をつなぐ」新しい動きが「新しい未来」を構築する推進力となり、横浜が暮らしたい都市、働きたい都市、訪れたい都市となることが期待されます。

そこで、横浜市が創造都市を志向し、具体的な成果を出しつつあるこの時期にこそ、課題を見つめて「創造都市」の未来を描き、「いつまでに何を」という時間軸を入れた計画づくりを行い、公民協働で新しい公共を総合的に推進していくことを提言します。

### 1 これまでの取組と成果

#### (1) 新たな都市再生政策への転換

平成16年、横浜市が文化・芸術の創造性を活用して経済振興、都市計画などの行政課題を横断的、総合的に捉える「文化芸術創造都市＝クリエイティブシティ・ヨコハマ」構想を発表するとともに、横浜市に専門の組織を新設し取り組むなど、これまでのハード先行政策からヒト・コトを重視した都市再生政策に転換したことは内外より高く評価されている。特に平成20年3月25日には都市として「文化庁長官表彰」文化芸術創造都市部門第1号を受賞した。

#### (2) プロジェクトの推進成果

歴史的建造物の活用の観点と文化芸術振興の観点からBankART1929をはじめとする創造界限形成は、従来の公設公営モデルに対する公設民営モデルとして、行政やクリエイターをはじめ全国の芸術関係者に高く評価された。特に、都心部の課題解決にアートの力を活用する黄金町バザールに着手するなど、意欲的な取り組みも意義が高い。

象の鼻地区整備では設計者を全国公募して選定するなど、先進的なまちづくりを進めてきた。

また、東京芸術大学大学院映像研究科の誘致など「映像文化都市づくり」も具体的な展開が図られている。

さらに、創造都市横浜推進協議会の設置や企業ネットワーク形成などに着手し、公民協調した仕組みづくりにおいても他都市に先駆けた取り組みが成果をあげつつある。

## 2 今後の新たな展開（提案）

これまでの都心臨海部の文化芸術発信の拠点形成実績を踏まえ、点から面への広がり、人的及び組織的な広がりを拡充していく視点が大切です。

また「横浜らしい」魅力的な資源、歴史、都市環境などに立脚し、横浜ならではの歴史的建造物である近代建築などの活用やウォーターフロントの魅力づくりなどの実績を継承し、都心臨海部の回遊性向上を目指した水上交通、駅とウォーターフロントのネットワークづくりなどを拡充していく必要があります。

さらに、観光・集客プロモーション施策との連携強化を図りつつ、国際的な発信性を強化し、横浜の豊かな市民力と創造力に着目した展開が求められます。

### （1）国際会議の開催

平成21年度に開港150周年を迎えるにあたり、これまでのプロジェクトや国内外との交流の成果の上に、国内外の先進的な都市が結集する「世界創造都市会議」を横浜で開催し、成熟する都市の共通の課題を都市間で共有し、創造都市の次世代の都市像を再定義する必要がある。会議では、都市文化の新たな創造について議論を進め、「会議宣言」を国内外に発表するなど、次の創造都市の方向性をリードし、国内外の創造都市ネットワーク形成を推進することが望まれる。

### （2）創造都市の取組分野と既存施策の拡充

- ア 企業等の協働の観点から、まちづくり、ものづくり、デザイン、食文化、環境などの分野へ、クリエイティブを切り口にした政策や活動の領域を広げて取り組む必要がある。
- イ 文化芸術分野では、アーティスト・クリエイター及び市民等の創造活動や起業の支援を行う中間支援組織として、全国に先駆けて設置した「アーツコミッション」事業の強化を一層推進する必要がある。
- ウ 横浜トリエンナーレについて、「国際的な発信性」と「横浜らしさ」を特徴とした継続的な開催に向けて、より一層協議会の意見を反映させる枠組みを整理する必要がある。また、トリエンナーレの中間年においても、第2・第3のトリエンナーレのような事業を展開し、継続的な発信を行っていくべきである。
- エ 産業集積の観点から映像コンテンツ産業における、誘致、育成（インキュベーション）の推進に向け、立地促進施策の見直し、事業サービス・育成環境の形成などの集積施策を拡充するとともに、デザイン、エンターテインメント産業を始めとする発展の見込める業種について検討し、必要な対策を講ずるべきである。
- オ 創造性を生み出すこと及び人材育成の観点から大学や、専門学校などを引き続き積極的に誘致するとともに、学校と企業の産学連携の環境づくりに取り組む必要がある。

### (3) 都心部魅力づくりの展開

- ア 都心臨海部の港湾地区などの機能転換を進めるため、ナショナルアートパーク構想を下敷きに、インナーハーバーについても創造都市としての全体的な将来像を示すべきである。  
また、特に都心臨海部の特徴である歴史・水域・文化芸術を最大限に活かした「開港水際界限プロジェクト」を推進するため、日本郵船倉庫の継続的活用を含め、横浜市が主体となってプロジェクトを進める基盤づくりに重点的に取り組む必要がある。
- イ 創造界限形成を推進するため、現在整備を進めている象の鼻文化観光交流拠点、新港地区トリエンナーレ仮施設や旧東横線跡地を賑わいのある拠点としての活用計画を至急具体化するとともに、既存の旧第一銀行、日本郵船倉庫、旧関東財務局・労働基準局については、現在の位置づけを踏まえつつ拠点の役割を明確化し、新たな施設を含めた具体的なマスタープランを作成すべきである。
- ウ みなとみらい21地区では、文化拠点の機能を高め、より創造的な文化芸術活動を発信するとともに、相互の連携強化により新たな活動の創出、魅力発信に加えて、民間投資意欲がある状況を活かし、文化拠点、創造的産業の集積に資する開発内容に誘導する方策を講じる必要がある。

### (4) 市民、企業の創造力による地域づくり

- ア 「文化芸術創造都市＝クリエイティブシティ・ヨコハマ」を目指す横浜市の先駆的な取り組みを、より多くの市民が誇りと共感を持って共有できるよう、市民に対する広報や成果の還元等に取り組む必要がある。
- イ 市民やNPO等による地域の文化芸術活動を支援、連携強化するなど、市民と創造の担い手をつなぐ取組を推進するとともに、地域における社会的課題に目を向けて、文化芸術の持つ「創造性」を福祉や教育など様々な分野と結びつけていく取り組みをさらに拡充する必要がある。
- ウ 文化芸術創造都市・横浜の次代の担い手を育成するため、子どもたちが文化芸術の体験を通じて創造力を高めていく取組が必要である。
- エ 企業の社会貢献活動を介して文化芸術による地域づくりを進めるとともに、企業と創造の担い手をつなげていく取組が必要である。

### (5) 創造都市の推進体制

- ア 公民協働及び市民協働の視点から、開港150周年以降の体制について、都市・デザインや産業振興の分野を含めることや都心臨海部のエリアマネジメントの仕組みづくり、市民や企業等と創造の担い手をつなげていく仕組みづくりなど、今後の創造都市形成の拡充を目指して、様々な立場の意見を取り入れながら推進体制の検討に着手することが望まれる。

イ また、そのために協議会と協調して、多様な要素を包含しつつも、コンセプトの明白な具体的プロジェクトのより一層の推進が求められる。

### 提言 検討経過

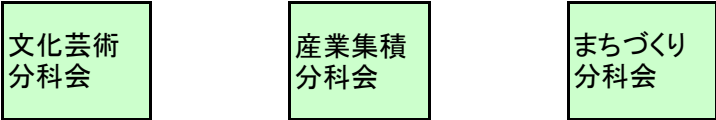
平成19年7月23日

創造都市横浜推進協議会設立総会  
・19年度事業計画

平成19年8月9日

平成19年度 第1回  
創造都市横浜推進協議会専門委員会  
・分科会方式による検討

平成19年8月～  
平成20年2月



平成20年3月

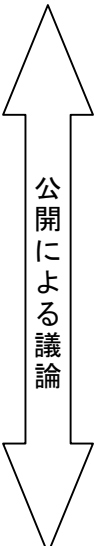
審査・政策分科会  
・各分科会のまとめ

提言素案

平成20年3月28日

平成19年度 第2回  
創造都市横浜推進協議会専門委員会  
・提言素案

平成20年5月26日



平成20年度 第1回  
創造都市横浜推進協議会専門委員会  
・提言素案(修正案)

提言案

平成20年6月24日

創造都市横浜推進協議会幹事会  
・提言(案)

平成20年7月17日

平成20年度創造都市横浜推進協議会総会  
・20年度事業計画  
・提言(案)

提言

横浜市長へ  
「クリエイティブシティ・ヨコハマの  
新たな展開に向けて」(提言)

# 提言 検討メンバー

## 創造都市横浜推進協議会

敬称略

	企業名・団体名	総会メンバー	幹事会メンバー
会長	株式会社 資生堂	名誉会長 福原 義春	常勤監査役 大矢 和子
副会長	横浜商工会議所	副会頭 野並 直文 (株崎陽軒取締役社長)	理事 宇野 巧一
委員	東京ガス 株式会社	執行役員 神奈川支社長 秋山 裕司	エネルギー企画部 担当部長 野口 仁
	東京電力 株式会社	執行役員 神奈川支店長 廣瀬 直己	神奈川支店 総務部長 玉川 博美
	東日本電信電話株式会社	取締役 神奈川支店長 豊田 茂	神奈川支店 総務部長 伊東 健一
	三菱地所 株式会社	代表取締役 専務執行役員 長島 俊夫	横浜支店長 執行役員 風間 利彦
	株式会社 横浜みなとみらい21	代表取締役社長 小椋 進	企画部長 森 廣人
	日本放送協会	横浜放送局長 壺岐 哲平	横浜放送局 放送部長 朝比奈 正彦
	横浜港運協会	副会長 藤木 幸太 (藤木企業(株)取締役社長)	同左
	横浜中法人会	会長 近澤 弘明 (株)近沢リース店代表取締役)	同左
	神奈川芸術文化財団	専務理事 石丸 恭一	事務局長 市川 恒男
	横浜開港150周年協会	専務理事 小野 耕一	事務局次長 大八木 雅之
	横浜観光コンベンションビューロー	専務理事 横山 悠	常務理事 事務局長 岡本 孝夫
	横浜企業経営支援財団	常務理事 吉田 正博	事務局次長 菅原 達雄
	横浜市芸術文化振興財団	専務理事 加藤 種男	事務局長 濱 陽太郎
	神奈川県	県民部長 山口 英樹	文化課長 佐藤 清
	横浜市	副市長 野田 由美子	開港150周年・創造都市事業本部長 川口 良一

## 創造都市横浜推進協議会専門委員会(創造都市横浜推進委員会)

敬称略

	所属団体(役職名)	氏名	備考
委員長	ニッセイ基礎研究所 室長	吉本 光宏	※1、4
副委員長	東京大学新領域創成科学研究科 教授	北沢 猛	※2、4
副委員長	ジャパン・デジタル・コンテンツ信託 代表取締役社長	土井 宏文	※3、4
専門委員	三菱地所 部長	恵良 隆二	※2
	直島福武美術館財団 事務局長	加賀山 弘	
	国際交流基金 コーディネーター	菅野 幸子	※1
	横浜国立大学 教授	北山 恒	※1、2
	電通コミュニケーションデザインセンター 局長	白土 謙二	※3
	横浜市立大学ヨハマ起業戦略コース 准教授	鈴木 伸治	※1、2、3、4 まちづくりプロデューサー
	中法人会 会長	近澤 弘明	※2
	セゾン文化財団 プログラム・ディレクター	久野 敦子	※1
	東洋大学大学院経済学研究科 教授	根本 祐二	※3
企業メセナ協議会 シニアプログラムオフィサー	若林 朋子	※1	

※1 文化芸術分科会

※2 まちづくり分科会

※3 産業集積分科会

※4 政策・審査分科会



# (仮称)世界創造都市会議 企画(案)

090521横浜市創造都市推進課

**目的** 横浜市では、固有の歴史的資産を活用して、文化芸術の持つ「創造性」を、都市の新しい価値や魅力に結びつける「創造都市」の都市づくりを進めてきた。2009年、開港150周年を迎えるにあたり、創造都市を先導してきた横浜市が、これまでのプロジェクトや国内外の交流の成果の上に、新しい都市づくりの取組を議論する場をつくり、次の創造都市の方向性をリードし、会議の宣言として国内外に発信する。

**概要** (1)都市がより成熟していく中で、それぞれの都市はその都市由来のオリジナルの資源を活用して、魅力にあふれ、市民が楽しく暮らせる都市を築こうとしている。成熟していく都市の共通の課題を抽出・議論し、創造都市の次世代の都市像を再定義し都市文化の新たな創造を図る。

(2)アーティスト・クリエイターの集積や事業の推進により街はどのように活性化され、街づくりとどのような関係を築けるのか。アート・デザインによる新たな都市空間の再生に向け、創造都市を再構築する。(文化芸術と街づくり)

(3)企業のCSRの動きや市民のパートナーシップと連動して、創造的なネットワークを構築し街づくりへと繋げていく。(街づくりと産業振興)

(4)文化・芸術の持つ力で、どのような産業イノベーションを推進できるのか、福祉・市民協働・環境などの分野との連携も視野に入れて、協議する。(文化芸術と産業振興)

(5)創造都市交流や日仏都市対話や都心部商店街等の街づくり団体、地域のNPO団体、市民等が一堂に会し、行政・中間支援組織・NPOの連携や支援のあり方を含めて議論し、交流ネットワークを今後の財産として活用する。

(6)ワーキング等で議論する過程で、今後の組織や新たな創造都市の目標に結びつけ、世界創造都市会議の成果を宣言としてまとめる。

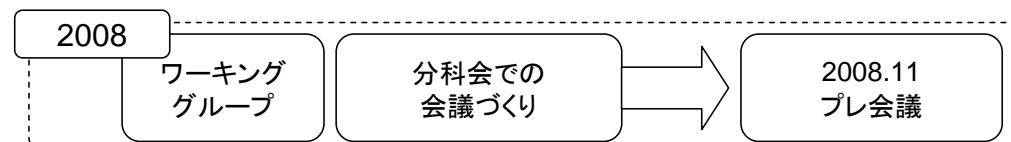
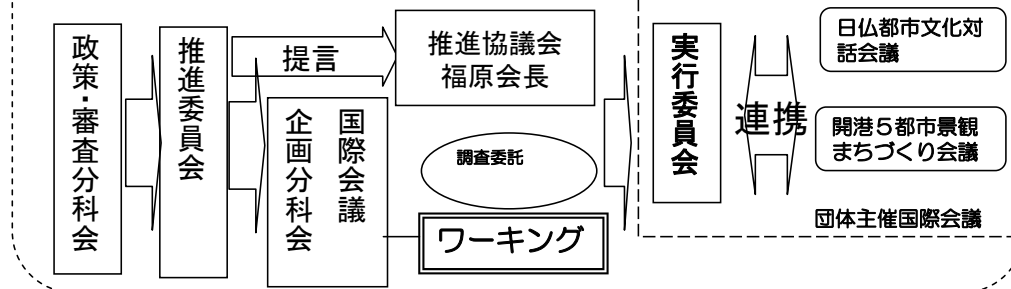
**主催** 横浜市

**共催** 創造都市横浜推進協議会、横浜市芸術文化振興財団、国際交流基金、NIRA、ブリティッシュカウンシル、Bankart1929、ほか(調整中)

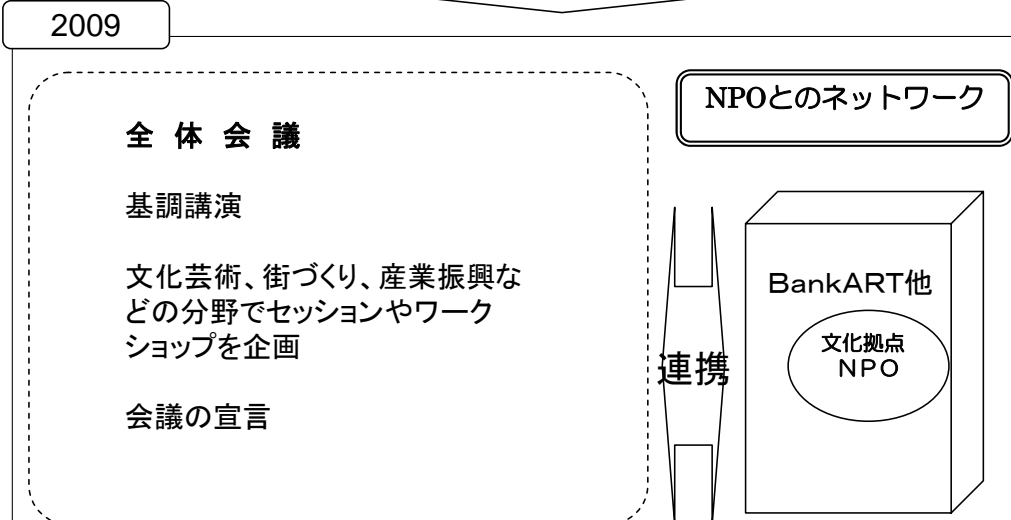
**開催時期** 2009年、テーマイベント開催時6月～9月の間、2～3日間

**開催場所** 関内ホール、開港記念会館、赤レンガ倉庫1号館、創造境界の諸施設等

## 開催準備組織立ち上げ手順(案)



## 計画立案



## アーツコミッション・ヨコハマの機能強化について

\*「創造都市横浜」の形成に向けては、「文化芸術」「街づくり」「産業集積」の3つの分野が三位一体となって、官民それぞれの組織が協働して政策・事業を推進することが必要である。

\*行政に対するカウンターパートとして、官民の参画により「創造都市横浜推進協議会」が既に組織されている中で、「アーツコミッション」は、文化芸術部門に軸足を置いた具体的な事業、活動、支援等を行う「実施主体」となる。

\*既に活動を開始している「アーツコミッション・ヨコハマ」を母体として機能強化を図り、創造都市形成に向けての実践を蓄積することが重要である。

\*「アーツコミッション・ヨコハマ」は、将来的にはその活動において、以下のような特性を持つことを目標とすべきである。

- ・自治体等に対して、文化芸術に関する政策を提言する役割を担う
- ・多彩な分野の文化芸術活動を行う団体、個人に助成を行いつつその評価を行う
- ・独自の支援プログラムの開発やNPO等のネットワーク化を図る

\*具体的な組織の陣容については、現在の「アーツコミッション・ヨコハマ」の発展形であることを考慮し、横浜市芸術文化振興財団との調整を軸に検討する必要がある。

\*公共側の主体である「創造都市事業本部」が、2009年までの時限組織であることから、その役割の委譲等を考慮して、本部の改変に合わせ、2009年度中に組織化することを目標とする。

\*横浜がアジアの芸術的ハブになることを目指す中で、「アーツコミッション・ヨコハマ」が中心的な役割を担うことが期待され、その意味で、その拠点は、アーティスト・クリエイターが常に活動している「現場」そのものの中に置かれることが望ましい。



## 【アーツコミッション・ヨコハマ】の現状

「創造都市横浜」形成に向けての取り組みの中で、その先駆的な役割を担って具体的な活動を開始したアーツコミッション・ヨコハマの活動実績を踏まえ、今後その機能を強化する形で組織としての充実を図ってゆくことが望まれる。

- ◆アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）の活動の現状
  - \*文化芸術活動に関する「中間支援機能」を核とする
    - ⇒アーティストに対する相談窓口 情報のポータルサイト等
  - \*アーツコミッション・ヨコハマとしての自主事業の展開
    - ⇒アーティストインレジデンス都市間交流プログラム等
  - \*（財）横浜市芸術文化振興財団が運営（平成19年7月、ZAIM1階に開設）
  - \*活動の財源としては、市からの運営費補助

### 機能強化

## 【アーツコミッション・ヨコハマ】の活動内容

アーツコミッション・ヨコハマの活動は、「助成・支援」「連携」「芸術振興」「交流」「コア施設」の5つの視点から構成される。

### ■アーティスト・活動団体の支援

- \*個別アーティスト等への相談窓口、活動支援
- \*支援プログラムの開発、助成対象の選定、助成金の配分
- \*アーティストの活動支援団体等への中間支援

### ■活動拠点を連携するプラットフォーム

- \*芸術文化情報の一元化、ポータルサイト
- \*共同活動等のプログラム、市の催事等への参加仲介

### ■創造性育成のためのアウトリーチ

- \*学校向けプログラム、アーティスト派遣
- \*教育プログラム、子ども教室の充実

### ■国際交流・都市間交流プログラム

- \*海外交流アーティストインレジデンス事業
- \*海外からの招聘、海外への進出促進
- \*横浜トリエンナーレの開催支援

### ■コア施設の運営

- \*活動の拠点となるセンター施設の運営
- \*現在のZAIM施設の改組、活動拠点としての整備、運営
- \*都心部の中核的施設の管理運営

## 行政との関係・果たすべき役割

これらの活動を効果的に遂行するために、行政からの適切な権限等の付託を受け、充分な予算を確保しつつ、行政に対する提言、政策遂行のための協働を行う。

### ◆芸術文化政策

- \*芸術文化政策の立案・提言

### ◆助成金配分・執行

- \*助成対象の選定・助成の実施

### ◆創造界隈形成

- \*創造界隈形成のためのルール策定・遂行：法的許認可の前提

### ◆創造都市プロモーション

- \*創造都市横浜の対外的PR
- \*世界創造都市会議の開催

## 創造界隈拠点の今後の方向性について

### 1 旧第一銀行（現BankART 1929 Yokohama）

【現状】 H16年2月開館

\* BankART 1929 Yokohama として、現代アートに軸足を置いた様々な展示活動、スタジオ事業さらにはスクール事業等を行っている。  
\* NPO法人BankART 1929 が運営管理を担う。(平成20年度迄)



【今後の方向性】

\* 創造都市横浜形成を先導的に牽引するために、従来の創造活動の実践拠点という役割を超えて、全体の政策、事業を誘導コントロールする中心的な施設として再編する。  
\* 極めて象徴的な立地環境、建物の形状等を最大限活かしたシンボリックな機能の導入し、立地および建物の資質に相応しい場として整備する。  
\* 創造都市形成に向けて、情報発信・交流拠点とすることを主眼に、具体的な運営を担う団体の公募を想定する。  
\* 特に建物1階部分については、その空間形状を活かし、多様なパフォーマンスの場として活用する。

### 2 日本郵船倉庫（現BankART Studio NYK）

【現状】 H17年1月開館

\* BankART Studio NYK として、ギャラリー、アトリエ、スタジオ等として活用されている。(NPO法人BankART 1929による運営管理) (平成21年度まで)  
\* 横浜トリエンナーレ2008の会場として利用される(平成20年9月~11月)



【今後の方向性】

\* 横浜トリエンナーレ2008の会場としての利用に向けて改修工事が行われ、大規模な展示空間として整備されることから、その卓越した空間を最大限活用する創造的活動の発信拠点としての役割を継続することが望ましい。  
\* トリエンナーレとしての利用の後に、現在BankART 1929 Yokohama と、BankART Studio NYK に分かれている活動を集約して、より強力な創造活動の発信基地とする。  
\* 「クリエイティブシティ・ヨコハマ」の重点的プロジェクトとして位置づける「開港水際界隈」に立地するわが国でも稀な優れたオルタナティブスペースとして、市が恒久施設として整備することが望ましい。

### 3 旧関東財務局・旧労働基準局（現ZAIM）

【現状】 H18年6月開館

\* 創造活動の拠点として多くの団体に積極的に活用されており、一定の社会的地位を獲得しつつある。  
\* 「アーツコミッション・ヨコハマ」のオフィスの設置。  
\* 横浜市芸術文化振興財団に目的外使用許可(単年度)および活用に関する基本協定締結(平成21年度まで)  
\* 平成22年度から2年間改修工事が行われる。



\* 日本大通り創造界隈の中核施設として、文化芸術活動に係るNPOの活動拠点、インキュベーション施設としての役割を果たすとともに、エリアに立地する各種の文化施設や、象の鼻地区に新たに整備する拠点との連携を促すプラットフォームとする。  
\* その中心的役割を担って、「アーツコミッション・ヨコハマ」の拠点オフィスを設置する。  
\* 従来から担ってきた横浜トリエンナーレの拠点としての役割を継続する。  
\* 併せて、市民利用を促進するために、カフェ・レストランや店舗等の導入を図る。

## 4 その他の創造界隈拠点

\* 都心部のトライアングルを形成する中核的な施設を取り巻いて、多様な場が独自の戦略を持って創造的活動を発信することが望ましい。

### 【急な坂スタジオ】 H18年10月開館

\* 舞台芸術の稽古場としての地位を獲得しつつあり、今後も基本的にはその路線の延長として活動を継続する。  
\* 多様な発表の場を開拓し、稽古場での成果を広く界隈に展開することが求められる。  
\* そのために、他の創造拠点との連携を強化することが重要。



### 【創造空間9001】 H19年9月開館

\* 旧東横線桜木町駅舎を活用して、主として展示空間として活動を展開している。(平成21年度までの予定) 駅に近接している優れた立地条件を活かして、多様なニーズに応えることが求められる。  
\* 多様な創造活動と市民との接点となるアンテナの役割、創造界隈拠点のサテライト的な役割が期待される。



### 【東横線廃線跡地】

\* 旧東横線跡地については、上部をプロムナードとして整備する計画が進められている。また、その高架下の空間についても、積極的に創造拠点として整備を行う。  
\* アクセス性を考慮し、場に相応しい機能の導入を図る。基本的には創作の場として活用することが期待される。  
\* 東横線廃線跡地活用懇談会の討議を踏まえ活用策を検討。



### 【BankART 桜荘】 H18年6月開館

\* 民間店舗を中区が賃借し、NPO法人BankART 1929が管理運営して、街づくりと連携した文化芸術活動を展開している。  
\* 地域と密着した活動を行っている点が重要であり、当面その延長上で活動を継続する。



### 【初黄・日ノ出町地区】

\* 初黄・日ノ出町地区において、クリエイティブシティの取組を重点的に進め、まちの再生を図る。  
\* 桜荘同様地域の街づくりと連携することが重要であり、今後長期にわたるプロジェクトとなる。  
\* 桜木町・野毛創造界隈に含め、創造界隈の重点地区として位置づける。



### 【新港地区トリエンナーレ仮設施設】 【象の鼻活動拠点】の今後の方向性

\* トリエンナーレ以後の活動拠点として育成する。

# 産業集積について

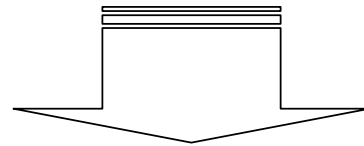
## 1. 創造的産業の動向

クリエイティブシティ・ヨコハマにおける創造的産業  
市民生活の豊かさ、都市の自立的発展を目標として、ソフトとハード、文化芸術・経済振興・都市空間形成の融合により新しい価値や魅力を生み出す都市像を形成していく。

- 映像等のコンテンツは、幅広い分野で発展の可能性をもち、創造的産業として注目されている。
- 【背景】・クリエイティブ価値の重要性が増大し、エンタテインメント関連以外の分野(医療・福祉等)への活用が増加
- ・受注のための立地集積から生産の分業化、流通のダイレクトへ
- ・投資対象は設備から知財・人材へとシフトしており、それらのマッチングの場が必要

## 2. 創造的産業の現状

- 多くのコンテンツ産業が東京に集中している。(映像プロダクションの74%、アニメーション業界の79%)
- コンテンツ分野、特に映像分野の横浜市内立地は低調(16%程度)
- ⇒映像コンテンツ産業の中で、重点的に集積を目指す分野の選定が必要
- ⇒映像コンテンツ産業の特性を捉えたインセンティブ(誘致・育成のシナリオ)が必要



## 5. 今後の集積施策

「映像文化都市・横浜」の確立に向けて、  
★今後発展性の高い業種(デジタル映像分野等)の誘致・育成(インキュベーション)を目指す。  
★①立地促進施策の見直し、②事業サービス・育成環境の形成の両面にわたる取り組みを段階的に進める。

- 立地促進施策の拡充
  - ・助成制度の改正
  - ・まちづくりにおける誘導

## 3. 横浜への産業集積施策の現状

区分	対象業種
立地助成	映像コンテンツ制作企業【関内・関外地区】
	重点産業(IT、映像、コンベンション、デザイン関連)
	アジア企業(中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、インド)
相談・交流・発信	事務所・研究所・工場等の特定地域に進出する大企業者及び中小企
	アーツコミッション(アーティスト、クリエイター、NPO等)
経営支援	ヨコハマEIZONE(立地企業・クリエイター含む映像産業)
	ヨコハマ価値組企業認定
	知的財産活用促進助成

## 4. 映像コンテンツ産業の横浜市内への集積の可能性

- H19.10.22 「映像ビジネス・サポート・フォーラム」実施結果
  - ・66社の企業が参加し、6割以上が「移転の可能性」及び「横浜立地の可能性がある」
  - ・移転・横浜立地の可能性のある企業は、企画シナリオ・CG制作などの業種が多い
  - 「ソフト・機材への助成」「制作支援」を希望している。
  - ⇒あらゆる映像分野の企画・シナリオ、監督・ディレクター等の個人クリエイター対策が有効
  - ⇒デジタル映像分野が重点対象業種として挙げられる



- 事業サービス育成環境の形成
  - ・不動産サービス
  - ・ファンリティサービス
  - ・人材育成、活用サービス
  - ・受発注マッチング、促進サービス

●内外の関係企業・人材が集積し、新たな映像文化・ビジネスを創出する拠点となる。  
●デザイン、エンターテインメント産業等をはじめとする発展が見込める業種について幅広く検討する必要がある。

# みなとみらい21地区の動向

## 1 現状と課題

みなとみらい21地区の土地処分の進捗率は約93%（平成17年度末、土地区画整理事業費ベース）であり、未処分地は残り少ない。開発当初は大型文化拠点の整備が進み、企業立地に伴いホールや展示施設などが併設された。バブル経済崩壊後は企業進出が停滞し、文化施設等の設置要望が緩和された。その後経済情勢の改善につれ、進出希望企業側から、オフィスや商業施設に加えて文化・交流・情報発信拠点などの提案が出されている。

## 2 今後の取り組み

### (1) 基本方針：創造的産業の集積と文化施設等のネットワーク推進

みなとみらい21地区は、横浜臨海部において今後とも最も投資が集積する地区であり、横浜都心部の経済的な牽引機能を持つことが期待される。今後の都市経済情勢を鑑み、国内及び世界の他都市との競争の中で横浜の位置を確立するためにも、その機能を担うにふさわしい産業として、創造的産業の集積を図る。また、みなとみらい21地区内に設けられた文化施設等を有効に活用し、施設間のネットワークづくり、企業や参加者の相互交流、芸術文化の発信などを推進する。

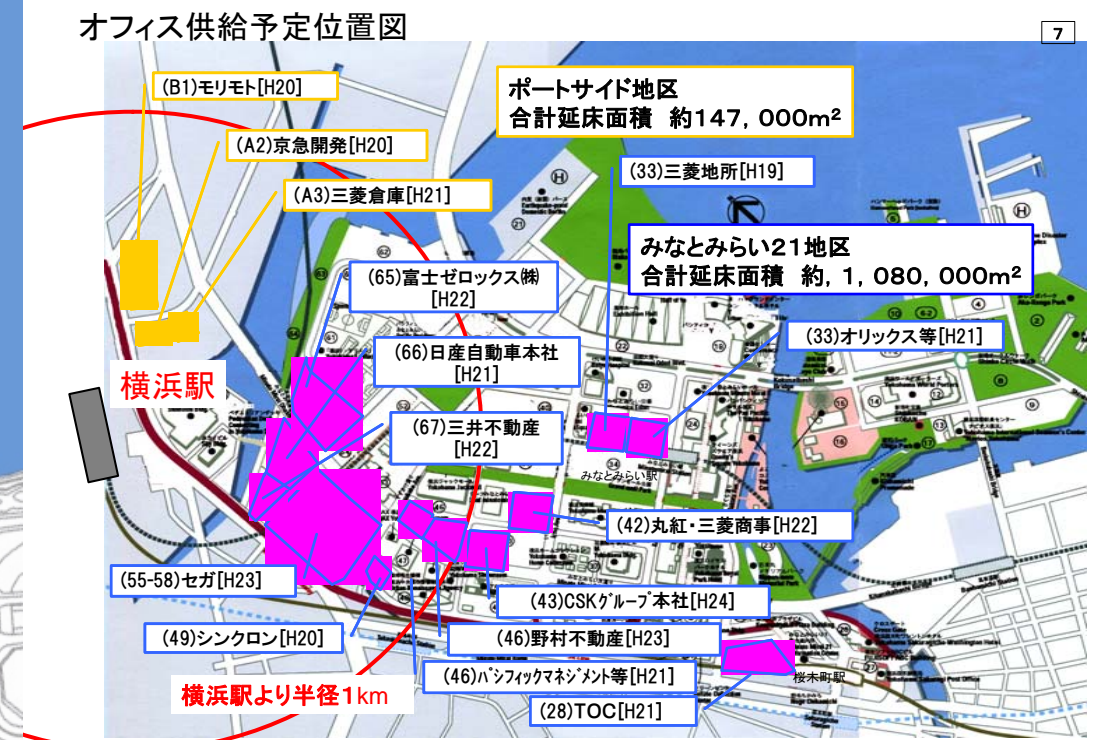
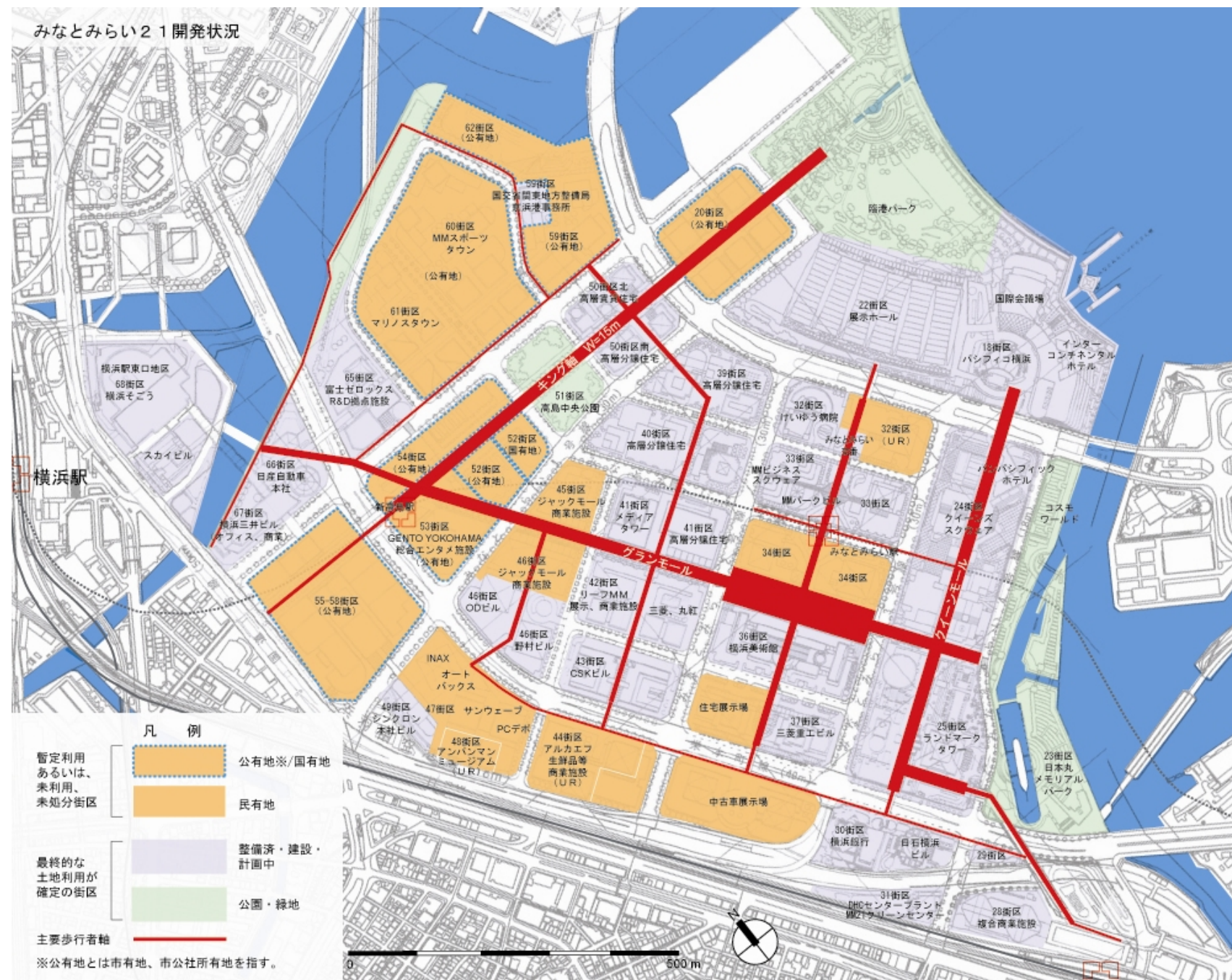
## (2) 実施方策

### ア. 創造的産業の集積推進

みなとみらい21地区では「キング軸」周りなどに今後売却予定の宅地が比較的多く残されている。みなとみらい21地区への民間投資意欲が積極的である今日の状況を活かし、公有地の売却などを含めて、クリエイティブシティを推進する「創造的産業の集積」に資する開発内容を誘導する方策を講じる。

### イ. 多角的な視点での検討

市有地が比較的多く残されているキング軸周辺については、市庁舎建設候補地のひとつであった52～54街区、開発が中止となった55～58街区、そして横浜駅周辺大改造計画の動向などを見据えていく必要がある。また、企業の本社誘致を推進する方策なども含めて、このエリアに集積すべき機能について多角的な視点から検討する。



※出典：横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会資料（平成19年11月）

\* 創造的産業とは、「個人の創造性や技術、才能に起源を持ち、知的財産の創造と市場開発を通して財と雇用を生み出す可能性のある産業群（英国「文化・メディア・スポーツ省」とされ、「広告、建築、美術・骨董、工芸、デザイン、ファッション、映画・ビデオ、TV・ゲーム、音楽、舞台芸術、出版、コンピューターソフト、テレビ・ラジオ」の13分野があげられている（ニッセイ基礎研究所吉本光宏氏による）。産業集積分科会では、それらに加えて関連分野として観光ビジネス産業なども視野に入れながら議論を行っている。

# 開港水際界限とは

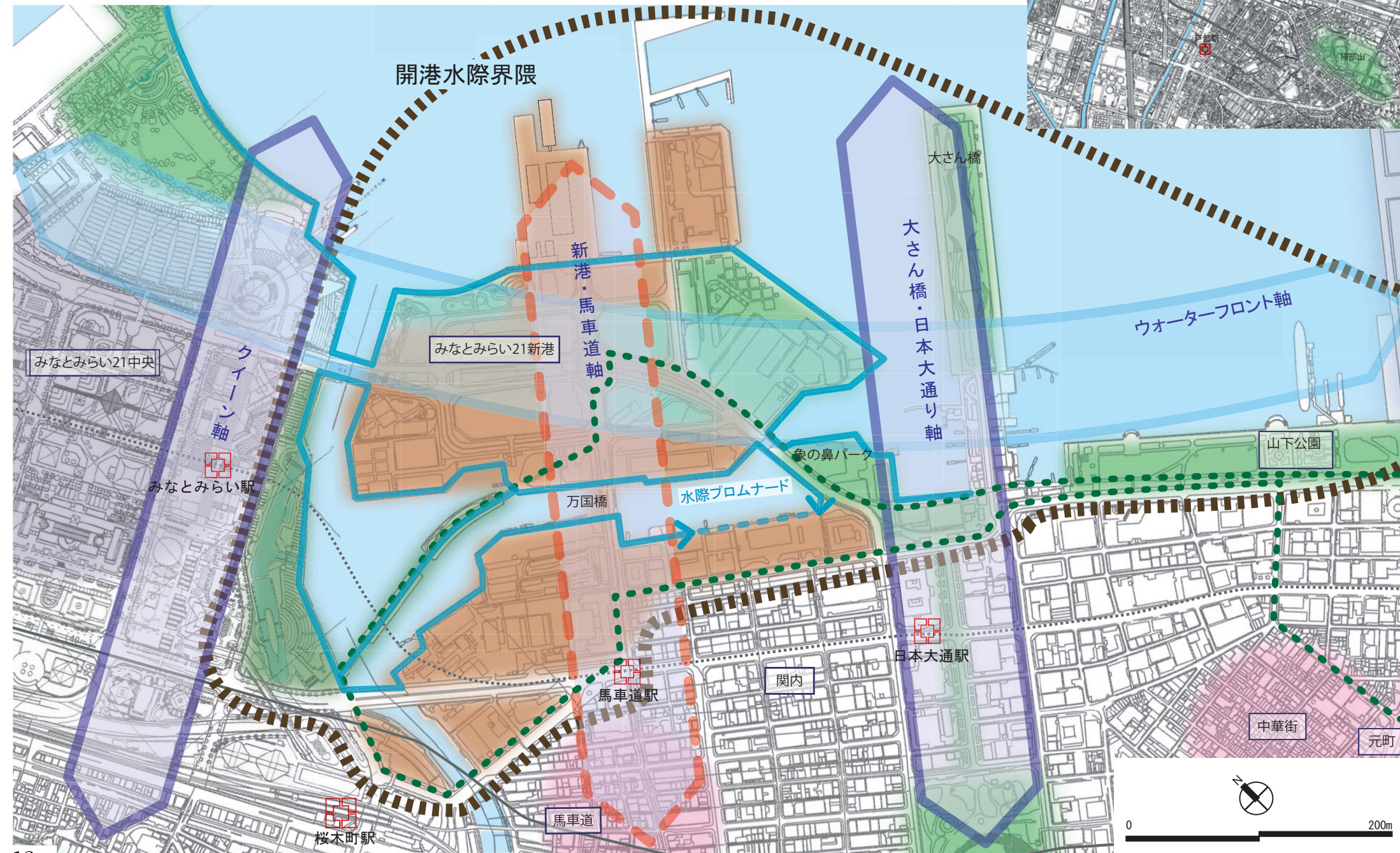
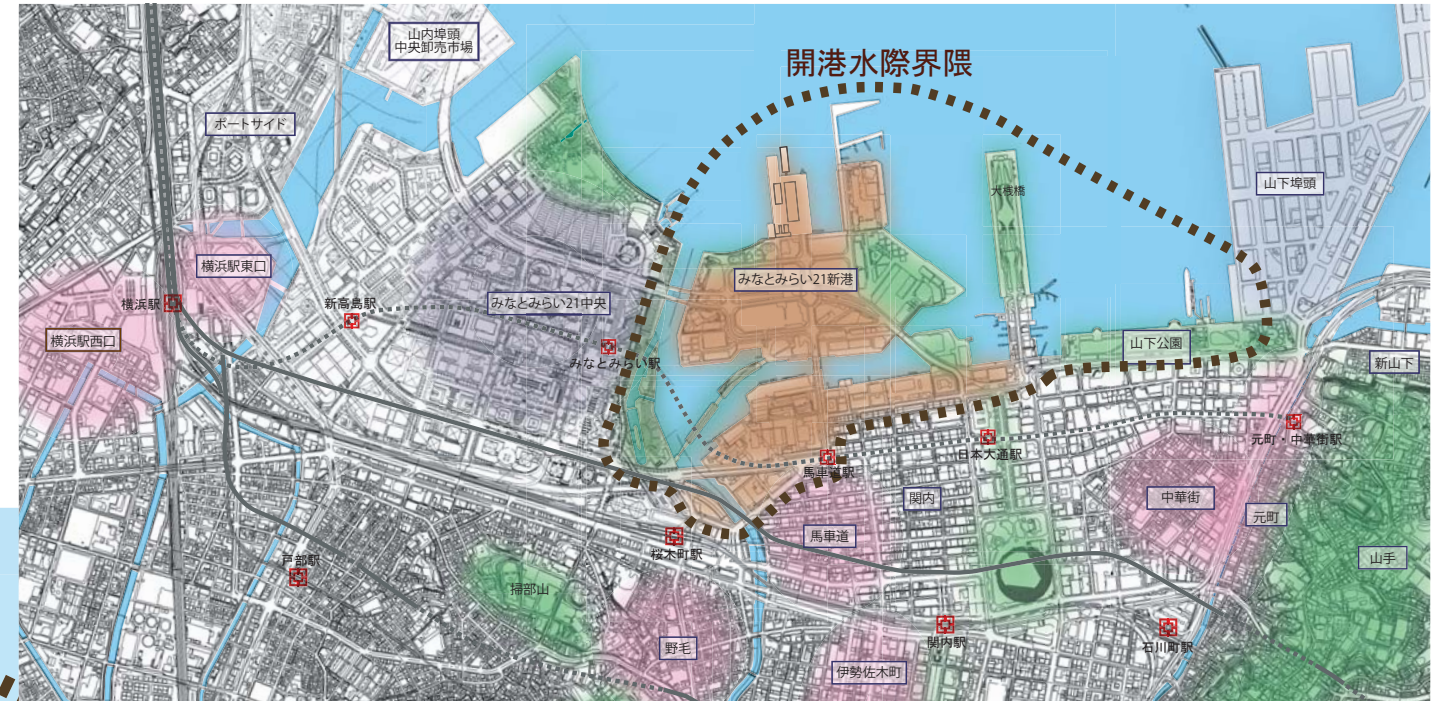
**開港水際界限** は、横浜都心臨海部の中心に位置し、開港当初の水際線沿いのエリアで、多くの歴史的建造物や土木遺構が残されているとともに、ヒューマンスケールな水面・水際空間があり、ミナトヨコハマならではの界索性が最も強く現れている地区です。ハマっ子の心の琴線に触れる魅力的な空間を整備できるポテンシャルが高く、これまでもゆったりとしたまちなみの形成を進めてきました。この特性を最大限に活かし、芸術文化など都市活動と都市デザインを一体的に推進していく「クリエイティブシティヨコハマ」の重点的プロジェクトを進めていきます。

## 主な軸線・歩行者ネットワーク・水際プロムナード

**新港・馬車道軸**：馬車道から万国橋を経て、新港に至る軸を「新港・馬車道軸」として位置づけ、強化していきます。新港・馬車道軸のゴールはトリエンナーレ2008会場であり、軸線上には開港150周年記念事業用地などのオープンスペースも立地します。

**水際プロムナード**：開港水際界限に水際プロムナードが整備されつつあります。BankART-NYK前から象の鼻に至る、県警～税関前はプロムナードの連続性が切れているため、今後整備を図ります。

## 開港水際界限の位置



BankART NYKから内水面の眺め

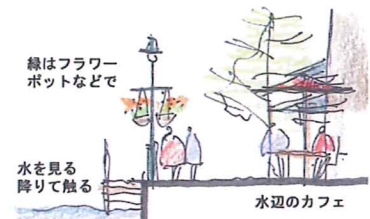
凡	例
	軸
	今後強化する軸
	水際プロムナード
	水際プロムナード (未連続部分)
	歩行者ネットワーク

# 開港水際界隈の将来イメージ

開港水際界隈においては、「歴史と水域を活かした芸術文化の創造」をメインコンセプトに、次に挙げる都市像を実現していきます。

## 1. 港の歴史と新しい魅力が再生された街並み

まちの賑わいのすぐ近くに水辺がある。水際には港の歴史を物語る風格ある建物や倉庫がレストランやスタジオ等として再生されている。新しい建築には歴史的な表現がさりげなく取り入れられ、新旧あいまって横濱を感じさせる街並みとなっている。



水際空間の多様な使い方



水上カフェレストラン (オランダ)

## 2. さまざまな人々が出会い、創造性を発信できる界隈

横濱を拠点とする芸術家や、文化性のあるビジネスを引きつける創造界隈の核として、求心力がある。街の随所でアートなしかけやパフォーマンス等の活動があり、多様な交流が生まれる。



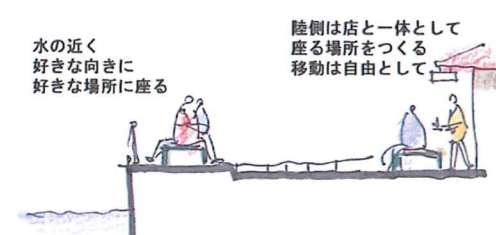
水上空間を活用したステージ (徳島)



水域でのアクティビティ (オランダ)

## 3. 歴史と賑わいのあるウォーターフロント

水辺の賑わい、船の往来、水際の土木遺構や小さな自然、そして夜景はこの界隈ならではのもの。水辺の木陰で、水上で、人々は思い思いに好きな時間を過ごす。みなとみらいと関内の結節点にあつて、開放的な見通しも楽しめる。



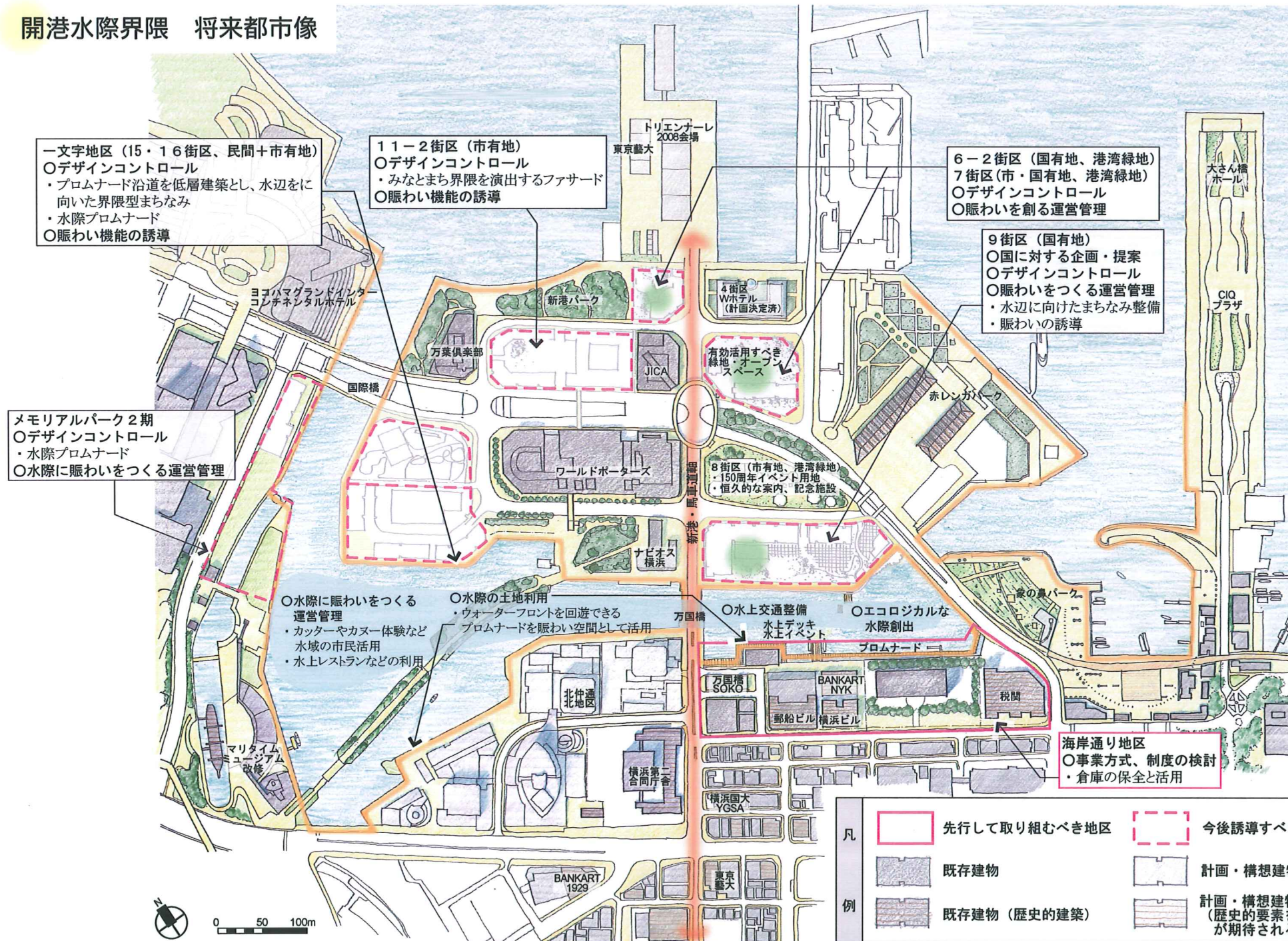
水の近く好きな向きに好きな場所に座る

陸側は店と一体として座る場所をつくる移動は自由として



水上交通 (イタリア)

### 開港水際界隈 将来都市像



### Heart of Yokohama - Yokohama Historic Waterfront

私のお気に入りの場所。ウィークデイの仕事に、深夜の寛ぎに、晴れた週末に、私はたびたびそこにいる。

馬車道から港方向に歩く。万国橋の両側に細く開ける開港水際界隈の水辺。水際はプロムナードに縁取られ、港ヨコハマの歴史を支えてきた建造物たちが様々な活躍している。

そこには様々な人たちが集まり、様々なことが起こっている。水際プロムナードには、新旧様々な建物が表情豊かに顔を並べている。オープンカフェで、水辺のアートを眺めながら、会話を楽しむカップルたち。レンガ壁の窓から漏れる灯りと笑い声。かつて倉庫だった建物は、アートスタジオやレストランとして使われている。プロムナード上、水辺や木陰に置かれた様々な椅子やそれらしきものは、思い思いに使われている。視線をあげれば橋上や対岸にも人々がそぞろ歩き、オーニングのもとには光と人影が集散している。そちらのざわめきも聴こえてくるようだ。

いろいろな扉、灯、建造物、水辺、すべてが自分の快いスケール感に入っている。生まれ変わりつつあるなかで、何かほっとする懐かしさ、港の匂いが漂う街。他に、こんな場所は思い当たらない。

万国橋からの夜景。みなとみらいのきらめく高層建築群を背景に、芸術的すらある屋形船の灯りが水面に揺れる。この水面は、三方が観客席の水上ステージだ。水上バスが、滑るように橋の下を通り抜けた。

この場所に佇むと、今日もここ開港水際界隈にいる小さな喜びが、私を満たしてくれる。

